

こども科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

総合研究報告書

低年齢児保育が子どもの発達等に及ぼす効果・影響の解明のための研究

令和6年度 分担研究報告書

「低年齢児保育の質とその向上を支える保育者・施設長の研修機会との関連」

研究分担者 今福理博 武蔵野大学教育学部幼児教育学科・准教授

研究分担者 峰 友紗 武蔵野大学教育学部幼児教育学科・准教授

研究分担者 箕輪潤子 武蔵野大学教育学部幼児教育学科・教授

研究要旨

本研究は、日本全国の保育施設（保育所・認定こども園等）を対象に、3歳未満の低年齢児保育の質に関する評価スケールの項目案を試作し質問票を送付した回答のうち、保育者の保育実践に関する意識と行動についての自己評価データを用いて因子構造を分析した。また、保育の質と保育者・施設長の研修機会との関連についても検討した。調査は2024年に5000施設へ自記式質問紙を送付しおよそ19.9%から回答を得た。0歳児・1・2歳児それぞれの保育について、「意識」と「行動」の観点から因子分析を行った結果、いずれも4つの因子が抽出され、項目について評価スケールとしての構造的妥当性が確認された。因子は、個別の発達や生活リズムへの援助、感覚・身体・感性・言葉・人間関係に関わる環境構成や援助などに分類され、現場の実践を反映していることを確認した。保育者・施設長の研修機会と保育の質の間には、有意な正の相関関係がみられた。本研究は、日本の文化的・制度的背景に即した3歳未満の低年齢児保育の質評価スケール草案の妥当性を初期的に検証し、保育の質向上に研修機会の整備が重要である可能性を示唆した。今後は、低年齢児保育の質評価スケールのさらなる精緻化や、実際の保育実践との整合性の検討が必要である。

A. 研究目的

乳幼児期の発達や育ちがその後の人生に及ぼす影響について国際的に注目されている。近年、就学前の保育が、子どもの認知的・非認知的能力の形成に長期的な影響を与えることが報告されており^{1),2)}、メタ分析研究では、乳幼児期の保育の「質」が、子どもの行動的・社会的・学業的な発達アウトカムと関連する可能性が示されている³⁾。

日本では、保育の「量」の確保に加え、「質」の確保・向上が重要な政策課題として位置づけられている⁴⁾。日本の保育ガイドラインである『保育所保育指針』⁵⁾をはじめとする制度的整備が進む一方で、保育の質を客観的か

つ継続的に把握・改善していくための評価スケールは未だ限られている。

また、0歳から2歳という低年齢期は、アタッチメント（愛着）や基本的信頼感の形成をはじめとする、子どものその後の発達の基盤が築かれる時期である。しかしながら、この発達初期における保育の質に関する実証的研究は、依然として限られており、特に日本においては質的評価のための尺度やその関連要因に関する知見が十分とはいえないのが現状である。したがって、日本の保育実践や文化的文脈に即した低年齢児保育の質の実態と、それを支える要因を明らかにすることは、今後の保育政策や実践の質的向上を

図るうえで重要である。

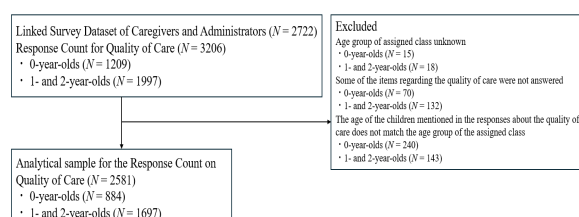
本研究は、日本全国の低年齢児保育を実施している保育施設（保育所や認定こども園等）5000カ所に、自記式質問紙を行った2024年の大規模調査の一部の成果である。本研究の目的は、以下の2点であった。(1)『保育所保育指針』を参考に、低年齢児保育の質評価スケール草案を作成し、(2)保育所・認定こども園等で低年齢児保育を実践している保育士・保育教諭（以下、「保育者」）が自己評価した保育の質と、保育者と施設長の研修機会との関連を検討することであった。国際的なメタ分析研究において、保育者や施設長の研修機会は、保育の質改善や発達アウトカムと関連することが報告されている⁶⁾。保育の質と研修機会との関連を検討することは、保育の質を実現する支援方策を作成するための基礎的知見を提供する。

B. 研究方法

1. 調査対象

日本全国の低年齢児保育を実施している保育所や認定こども園等の保育者および施設長を対象に、都道府県、施設種、施設設置別がランダムになるよう無作為抽出により調査対象施設を選択した。また、無作為で抽出した調査対象4500施設とは別に、研究班メンバーが、地方自治体や関連団体を通し依頼した施設やこれまで研究フィールドであった施設等500施設を合わせ、合計5000施設に質問紙を送付し回収した（回収率19.9%、実施期間2024年2月～5月）。

本研究の調査対象は、0・1・2歳児クラスを担当する保育者2,722名およびそれぞれの保育施設の施設長の回答を組み合わせたデータセットであった。有効な分析対象となったのは、0歳児クラス担任の保育者



884名、および1・2歳児クラス担任の保育者1,697名であった（図1）。

図1. 参加者の選定

2. 低年齢児保育の質と保育者・施設長の研修機会

本研究は、保育者を対象とした調査票と施設長を対象とした調査票の中の、保育の質への意識や行動に関する項目（保育者）、職場における質の向上の機会等（保育者・施設長）に関する項目の回答を主な分析に用いた。

(1) 低年齢児保育の質

『保育所保育指針』を参考に、保育者養成課程の専門家による協議を経て、低年齢児保育の質評価スケール草案を作成した。低年齢児保育の質評価スケール草案は、0歳児保育は23項目、1・2歳児保育は30項目で構成された。各項目は意識（大切だと思うか）と行動（実施しているかどうか）を、「1:かなりそうだ」～「10:全くそうでない」の10件法で回答を得た。

(2) 保育者・施設長の研修機会

職場における質の向上の機会等は、外部研修への参加、職員間の共有、園内研修の実施、自己評価と改善、施設長の専門性の向上、保育の質向上のための施設長のマネジメント、の項目で構成された。各項目は「1:半年に1回以上」～「4:していない」「1:とてもしていると思う」～「4:していないと思う」等の4件法で回答を得た。

3. データ分析

低年齢児保育の質について、最尤法およびプロマックス回転を用いた因子分析を行い、因子構造を検討した。また、保育の質と保育者・施設長の職場における質の向上の機会等との関連については、ピアソンの積率相関分析を行い検討した。

4. 倫理的配慮

本研究は、調査対象者の人権および個人情報

報の保護に十分配慮して実施した。調査に先立ち、調査目的、所要時間、個人情報保護・匿名性の確保等を明示した文書による説明を行い、同意を得た者のみを対象とした。本研究は、武蔵野大学教育学部倫理委員会の承認を受けた（承認番号 R6-002）。

C. 研究結果

本報告書に示す分析結果は、現時点でのデータ分析の途中経過に基づくものであり、今後更なる分析の進展により修正・変更される可能性がある。

1-1. 低年齢児保育の質評価スケール草案（0 歳児）の「意識」の因子構造

低年齢児保育の質評価スケール草案（0 歳児）に関する「意識」の回答について、最尤法による因子分析を行った。その結果、モデルの適合度が良好である 4 つの因子を抽出した（ $\chi^2=900.476$ （df=167, $p<.001$ ）、CFI（Comparative Fit Index）=.968、RMSEA（Root Mean Square Error of Approximation）=.071、AIC=1084.144、BIC=1494.629）。各因子の寄与率は、因子 1 が 14.70%、因子 2 が 13.03%、因子 3 が 12.80%、因子 4 が 11.68%であり、妥当な構造が示された（表 1）。

表 1.0 歳児「意識」の因子構造

項目	F1	F2	F3	F4	共通性
12 子どもの声や表情、体の動きなどから読み取る能力、子どもの感情など社会的感情的な物事に敏感に気づく能力。	.363	.137	.034	-.124	.675
11 子どもを尊重し、温かい雰囲気の中で、子どもの思いや欲求に気づく能力。	.539	.095	.006	-.007	.823
13 子どもが他の児童と友達になるのを促す能力、親しい関係を築く能力、生活や遊びの中で声を掛け合う能力。	.767	.107	.050	-.005	.792
6 子どもの感情や欲求が満たされ、心地よく寝る能力、子どもたちの健康を気にかける能力、一人一人のペースや個性に合わせた対応能力。	.669	.067	.129	.077	.779
8 子どもが食べ物を上手に食べ、食べることを楽しむ能力、食生活や食育に関する知識や技能を伝える能力。	.655	.021	.307	-.062	.793
10 子どもの安全や健康を確保する能力、子どもの健康や安全に関する知識や技能を伝える能力、子どもの安全を確保する能力。	.623	-.063	.137	.175	.771
9 子どもが言葉や行動で自分の感情や欲求を伝える能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.607	.249	-.226	.096	.513
7 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.599	-.133	.306	.139	.753
15 子どもが他の児童と友達になる能力、子どもの健康や安全に関する知識や技能を伝える能力。	.578	.177	.179	-.006	.760
14 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.566	.209	.066	.127	.708
5 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.449	.071	.139	.206	.656
4 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.442	-.070	.375	.077	.612
20 子どもが、手や足、顔、体の動きなどから読み取る能力、子どもの感情など社会的感情的な物事に敏感に気づく能力。	.137	.888	-.034	-.058	.848
21 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.052	.863	.059	-.031	.855
16 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.001	.647	.084	.198	.762
19 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.077	.439	.136	.107	.766
23 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.066	.463	.137	.029	.762
3 子どもが一人一人のペースや個性に合わせた対応能力、子どもの健康や安全に関する知識や技能を伝える能力。	-.050	.145	.827	.045	.865
2 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	-.203	-.028	.782	-.079	.857
1 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.185	-.244	.468	.015	.709
17 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.010	.171	.021	.774	.871
18 子どもが自分の思いや感情を表現する能力、子どもの感情や欲求に関する知識や技能を伝える能力。	.243	.130	.072	.812	.810
14 子どもの生活や遊び、健康、安全に関する知識や技能を伝える能力、子どもの健康や安全に関する知識や技能を伝える能力。	.097	.365	-.067	.419	.585

因子寄与 14.70 13.03 12.80 11.68

(a)第 1 因子：一人一人の発達や生活リズムに応じた援助

第 1 因子は、「子どもの欲求に応じた応答的な触れ合いや言葉かけ」（項目 12）や、「温かい雰囲気の中で子どもの思いや欲求を受け止める」（項目 11）、「子ども同士の関わりへの仲立ち」（項目 13）等、子どもの気持ち

に寄り添い、安心して過ごせるような保育者の関わりに関する項目が高い因子負荷量を示した。生理的欲求への関わり（例：授乳、食事、排泄、睡眠）を含む項目もこの因子に含まれ、子どもの基本的な安心感や信頼関係の形成にかかわる保育実践を反映している。(b)第 2 因子：感覚や興味・関心を育む環境構成

第 2 因子は、「探索活動を促す環境」（項目 21）、「感覚の働きを豊かにする環境」（項目 16）、「絵本や玩具の選定」（項目 19）等、子どもの発達過程や興味に応じた物的環境の工夫や構成に関する項目が高い因子負荷量を示した。この因子は、保育者による「環境構成」の視点に基づく援助の在り方を表している。

(c)第 3 因子：身体の動きを支える環境構成

第 3 因子は、「はう・立つ・歩くといった運動の経験」（項目 3）や、「十分に体を動かせる空間の確保」（項目 2）等、子どもの身体的発達を保障するための援助や環境設定に関する項目が特徴的であった。保育者の援助だけでなく、日常的な保育環境の整備が重要となる点が示唆される。

(d)第 4 因子：物的環境による関わりと感性的援助

第 4 因子は、「絵本の世界を共有する」（項目 17）、「落ち着いた声で絵本に触れる」（項目 18）、「身近な生活用具、玩具、絵本等の環境構成」（項目 14）という、絵本等を介した情緒的な関わりや、子どもの興味や好奇心をかきたてる援助に関する項目が構成していた。これらは、保育者の応答的態度と情緒的なふれあいが、絵本の読み聞かせ等の場面で重要であることを示している。

1-2. 低年齢児保育の質評価スケール草案（0 歳児）の「行動」の因子構造

低年齢児保育の質評価スケール草案（0 歳児）に関する「行動」の回答について、最尤法による因子分析を行った。その結果、モデルの適合度が良好である 4 つの因子を抽出

(d)第4因子：他者との関わりを広げる援助

第 4 因子は、「一人一人が十分に自己を発揮しながら、生活における様々な場面で他の子どもと多様な関わりがもてるようにしている」(項目 11)、「身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもって遊べるよう援助している」(項目 10)等、他者との関係性や社会性の発達に関する項目で構成された。子どもが他児との関係を築いていくことへの援助や、集団生活の中での経験の蓄積に着目した因子と考えられる。

2-2. 低年齢児保育の質評価スケール草案 (1・2 歳児) の「行動」の因子構造

低年齢児保育の質評価スケール草案 (1・2 歳児) に関する「意識」の回答について、最尤法による因子分析を行った。その結果、モデルの適合度が良好である 4 つの因子を抽出した ($\chi^2 = 2256.696$ (df = 321, $p < .001$)、CFI = .954、RMSEA = .060、AIC = 2503.077、BIC = 3121.159)。各因子の寄与率は第 1 因子が 14.56%、第 2 因子が 13.13%、第 3 因子が 13.05%、第 4 因子が 12.37%であった(表 4)。

表 4. 1・2 歳児「行動」の因子構造

項目	F1	F2	F3	F4	共通性
2 子ども一人一人の生理的なリズムに沿った生活ができるように配慮している	.714	.037	.344	.021	.776
1 一人一人の子供がぐずぐずして啼き止まず、心身の健康が保たれるようになっている	.697	.074	.148	.144	.581
4 子どもが様々な食品に慣れ、ゆとりと丁寧な食事の中で食事や飲食を楽しむよう援助している	.695	.058	.160	.115	.602
8 子どもが保育士等や他児との交流や関わりの中で、共に過ごす心地よさを覚えるよう援助している	.659	.211	.084	.128	.744
9 子どもが他児と関わりながら、家庭環境を模倣しながら、一人一人の成長のペースに合わせて、段階的・段階的に関わり合っている	.647	.138	.082	.217	.748
10 身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもって遊べるよう援助している	.585	.031	.054	.346	.723
5 子どもが身の回りの環境に慣れる機会を創出し、その環境が安全で安心できるように援助している	.573	.218	.048	.030	.648
11 一人一人が十分に自己を発揮しながら、生活における様々な場面で他の子どもと多様な関わりがもてるようになっている	.569	.004	.052	.416	.772
6 食卓の食卓に座って、子どもが自分なりに工夫して食卓のルールを守るよう援助している	.520	.164	.087	.023	.536
12 子どもが食卓に生活や遊びの中で経験する様々なこと、きまの大切さを子どもなりに感じるよう援助している	.393	.154	.156	.198	.643
13 生活や遊びの中で、子どもが他児や保育士等の存在を感じ、互いに関わりを築くよう援助している	.388	.012	.283	.153	.523
7 子どもが他児との関わりを通して、必要に応じて自分から関わりを求めよう援助している	.300	.194	.076	.066	.326
30 子どもが自分の経験や気持ちも、一語一文で伝え、身振りや表情などを用いて他児や保育士等とよく関わり合っている	.185	.768	.054	.105	.765
21 日常の挨拶をはじめとして生活や遊びの中で丁寧な言葉遣いを身に付けよう援助している	.313	.725	.041	.136	.726
25 子どもが安心して保育士等や他児との交流や関わりを楽しむよう援助している	.157	.497	.027	.105	.769
23 子どもがやりとりをしながら、イメージが湧いてくるよう、ことば遊びや遊びの中で言葉に関わり合っている	.001	.612	.016	.305	.700
24 子どもが生活や遊びの中で友達との言葉のやりとりを楽しみ、友達との関わりが広がるよう援助している	.092	.611	.033	.285	.778
22 言葉のやりとりの面白さを楽しくしたり、身体で表現して伝えるなどにつなげるよう、絵本や紙芝居を眺めたりする	.052	.567	.263	.054	.587
27 言葉や文法にあわせて歌い、身体を動かす、手や足でリズムをとる等の体の動きを一緒に楽しみ、関わっている	.173	.447	.447	.061	.534
18 子どもが自己表現の機会を積極的に求め、伸ばしている	.002	.084	.775	.181	.511
19 季節の変わり目や行事に合わせて、季節感を身に付けた生活を営めるよう工夫をしている	.129	.105	.638	.027	.625
14 子どもが探求活動を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを覚えているよう援助している	.288	.173	.619	.113	.667
26 子どもが他児との関わりを通して、色、形、匂い、味、触れなどの感覚の働きを覚えているよう援助している	.041	.158	.570	.119	.555
28 子どもが自分の経験や気持ちを伝えること、生活や遊びの中で、色、形、匂い、味、触れなどの感覚の働きを覚えているよう援助している	.115	.162	.526	.350	.714
16 子どもが身の回りの環境に慣れる中で、形、色、大きさ、量などの物性や性質を感知できるよう援助している	.189	.021	.500	.208	.640
15 子どもが数珠状に並び、適切な位置や順番、遊具を共用している	.285	.019	.483	.032	.565
3 走る、跳ぶ、のび、押す、ひくなどの全身を使った動きや遊びを楽しむよう援助している	.346	.169	.443	.118	.496
17 子どもが生活や遊びの中で、他児や保育士等の関わりを通して、生活や遊びの先のイメージや見通しができるよう援助している	.311	.043	.367	.201	.679
29 子どもが保育士等の関わり、経験した出来事を通して、生活や遊びの先のイメージや見通しができるよう援助している	.001	.213	.186	.552	.738
30 子どもが生活や遊びの中で興味のあることに関わり合ったり、自分なりに興味をもてるよう援助している	.073	.194	.182	.499	.720

因子寄与率 14.56 13.13 13.05 12.37

(a)第 1 因子:一人一人の発達や生活リズムに応じた援助

第 1 因子は、「子ども一人一人の生理的なリズムに沿った生活への配慮」(項目 2)や、「共に過ごす中で心身の疲れが癒されるようにする」(項目 1)、「食事や間食をゆったり楽しめるよう援助する」(項目 4)といった、生活リズムや情緒の安定を大切にする援助

が高い因子負荷を示した。また、「子どもが保育者や子ども同士と安定した関係の中で心地よさを感じられるようにする」(項目 8)等、子どもの心身の安心感を支える実践があった。これらの項目は、生活の基盤となる安定した環境づくりや応答的な関わりを通して、情緒の安定を図る実践を反映する因子と考えられる。

(b)第 2 因子:言葉の育ちへの関わりと応答的なやり取り

第 2 因子は、「一語文や身振りで気持ちを伝えようとする姿に応答的に関わる」(項目 20)や、「日常の挨拶や遊びの中で温かく言葉をかける」(項目 21)、「安心して思いを表現できるよう配慮する」(項目 25)といった、言葉を介したやり取りへの支援が高く負荷した。また、「ごっこ遊びを通じた応答的な関わり」(項目 23)や、「友達との言葉のやり取りを楽しめるよう仲立ちする」(項目 24)といった他者との関係の広がりを促す援助も含まれる。これらは、子どもの言葉の育ちの援助と共に、安心できる関係性の中で自分の気持ちを表現できるようにする保育実践を表している。

(c)第 3 因子:感性や表現力を育む環境構成と援助

この因子では、「身近な動植物を実際に見たり触ったりする」(項目 18)、「季節の変化を感じ取れる工夫をする」(項目 19)、「感覚を豊かにする環境づくり」(項目 14)、「素材に触れ感触を楽しめるよう援助する」(項目 26)といった、子どもの五感を通じた直接的な体験や自然・物との関わりへの援助があった。これらの実践は、子どもが身の回りの環境や素材と豊かに関わりながら、感性や興味を広げていく姿を支えていることを反映する因子と考えられる。

(d)第 4 因子:経験やイメージの表現への援助

この因子には、「生活や遊びの中で興味のあることを自分なりに表現できるよう援助する」(項目 30)、「生活や遊びの先のイメー

ジや見通しが広がるように関わる」(項目 29) といった、子ども自身の思いやイメージを表現したり先を見通す力に関わる援助が含まれる。これらは、子どもが内面的な世界を豊かに表現し、主体的に活動に取り組むための援助として位置づけられる。

3. 低年齢児保育の質と保育者・施設長の研修機会との関連

0歳児保育の質と研修機会との関連について、保育者による園内研修の実施、職員間の共有、自己評価と改善、施設長の専門性やマネジメントの認識は、いずれも保育の質の意識・行動の因子と有意な正の相関関係を示した(表 5)。とりわけ「保育の質向上のための施設長のマネジメント」や「園内研修の実施」は多くの因子と有意に関連し、質の高い保育実践を支える職場環境の重要性が示された。一方、施設長自身の研修参加や自己評価は、保育者の意識・行動との相関はやや弱く、一部で有意ではあったものの、全体的には限定的な関連であった。

表 5.0 歳児保育の質と研修機会の関連

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1. 質(因子(意識))	879 **																			
2. 質(因子(意識))	846 **	871 **																		
3. 質(因子(意識))	859 **	869 **	861 **																	
4. 質(因子(意識))	769 **	792 **	764 **	751 **																
5. 質(因子(行動))	761 **	823 **	722 **	818 **	761 **															
6. 質(因子(行動))	723 **	828 **	843 **	837 **	814 **	781 **														
7. 質(因子(行動))	700 **	835 **	858 **	832 **	789 **	789 **	784 **													
8. 園内研修への参加 (保育士)	119 **	139 **	131 **	107 **	168 **	118 **	166 **	118 **												
9. 施設長の専門性 (保育士)	166 **	179 **	164 **	179 **	203 **	169 **	184 **	199 **	201 **											
10. 園内研修の実施 (保育士)	692 **	679 **	661 **	686 **	661 **	614 **	689 **	641 **	718 **	614 **										
11. 自己評価と改善 (保育士)	168 **	161 **	173 **	179 **	217 **	178 **	224 **	188 **	262 **	295 **	374 **									
12. 施設長の専門性向上のための施設長の研修参加 (保育士)	307 **	219 **	215 **	124 **	118 **	168 **	129 **	181 **	268 **	306 **	274 **	173 **								
13. 保育の質向上のための施設長の研修参加 (保育士)	232 **	228 **	238 **	221 **	229 **	233 **	229 **	218 **	239 **	345 **	261 **	481 **	781 **							
14. 園内研修への参加 (施設長)	362 **	271 **	268 **	293 **	344 **	279 **	333 **	344 **	272 **	274 **	114 **	363 **	399 **	389 **						
15. 園内研修の実施 (施設長)	662 **	657 **	654 **	665 **	692 **	683 **	673 **	279 **	279 **	328 **	339 **	535 **	559 **	589 **	389 **					
16. 施設長の専門性 (施設長)	863 **	843 **	851 **	849 **	844 **	864 **	872 **	882 **	884 **	855 **	858 **	881 **	874 **	874 **	872 **	223 **				
17. 自己評価と改善 (施設長)	667 **	654 **	655 **	651 **	654 **	668 **	669 **	682 **	675 **	213 **	221 **	338 **	314 **	331 **	223 **	391 **				
18. 施設長の専門性向上 (施設長)	660 **	668 **	661 **	653 **	641 **	661 **	669 **	668 **	658 **	337 **	333 **	492 **	538 **	551 **	333 **	343 **	261 **			
19. 施設長の専門性向上のための施設長の研修参加 (施設長)	660 **	668 **	662 **	658 **	643 **	663 **	668 **	665 **	659 **	343 **	339 **	495 **	514 **	523 **	319 **	289 **	269 **	469 **		

次に、1・2 歳児保育の質と研修機会との関連について、0 歳児の結果と同様に、保育者の研修に関する変数は、いずれも保育の質の意識・行動の因子と有意に正の相関関係を示した(表 6)。なかでも「保育の質向上のための施設長のマネジメント」や「施設長の専門性の向上」との関連が特に高く、現場での保育の質の向上において施設長の影響が重要であることが示唆された。施設長自身の研修に関する変数については、意識・行動の各因子と多くの項目で有意な相関が見られたが、相関係数は全体的に小さく、保育者の保育の

質の意識・行動の因子との関連は限定的であった。

表 6.1・2 歳児保育の質と研修機会の関連

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1. 質(因子(意識))	856 **																			
2. 質(因子(意識))	868 **	824 **																		
3. 質(因子(意識))	830 **	845 **	768 **																	
4. 質(因子(意識))	830 **	768 **	732 **	790 **																
5. 質(因子(行動))	630 **	723 **	644 **	677 **	837 **															
6. 質(因子(行動))	648 **	851 **	718 **	648 **	762 **	762 **														
7. 質(因子(行動))	669 **	648 **	624 **	762 **	742 **	743 **	621 **													
8. 園内研修への参加 (保育士)	116 **	149 **	125 **	112 **	123 **	163 **	149 **	115 **												
9. 園内研修の実施 (保育士)	139 **	111 **	113 **	104 **	109 **	207 **	142 **	118 **	214 **											
10. 園内研修の実施 (施設長)	155 **	189 **	160 **	171 **	175 **	198 **	179 **	195 **	185 **	270 **										
11. 自己評価と改善 (保育士)	145 **	143 **	131 **	132 **	131 **	184 **	134 **	145 **	180 **	228 **	431 **									
12. 施設長の専門性向上 (保育士)	202 **	234 **	189 **	196 **	227 **	201 **	174 **	213 **	189 **	325 **	344 **	345 **								
13. 施設長の専門性向上のための施設長の研修参加 (保育士)	231 **	254 **	221 **	219 **	231 **	202 **	209 **	237 **	181 **	350 **	334 **	322 **	712 **							
14. 園内研修の実施 (施設長)	677 **	654 **	679 **	621 **	660 **	662 **	661 **	669 **	691 **	679 **	591 **	681 **	686 **							
15. 園内研修の実施 (施設長)	639 **	661 **	666 **	638 **	664 **	686 **	662 **	666 **	668 **	711 **	112 **	681 **	727 **	155 **	269 **					
16. 園内研修の実施 (施設長)	667 **	669 **	667 **	669 **	675 **	676 **	638 **	722 **	669 **	644 **	267 **	257 **	289 **	268 **	221 **					
17. 自己評価と改善 (施設長)	654 **	661 **	661 **	679 **	660 **	675 **	648 **	667 **	662 **	664 **	247 **	248 **	190 **	176 **	162 **	216 **	319 **			
18. 施設長の専門性向上 (施設長)	684 **	699 **	692 **	686 **	690 **	687 **	697 **	699 **	692 **	624 **	698 **	728 **	728 **	697 **	119 **	266 **	278 **	269 **		
19. 施設長の専門性向上のための施設長の研修参加 (施設長)	679 **	702 **	679 **	686 **	692 **	689 **	681 **	684 **	686 **	677 **	649 **	711 **	712 **	681 **	197 **	308 **	306 **	286 **	416 **	

D. 考察

本研究の目的は、低年齢児保育の質を評価するためのスケール草案を作成し、低年齢児保育の質とその向上を支える保育者・施設長の研修機会との関連を検討することであった。

低年齢児保育の質評価スケール草案(0 歳児および 1・2 歳児)における「意識」と「行動」の各項目に対して因子分析を行った結果、いずれの年齢層においても、一人一人の発達や生活リズムに応じた援助に関する側面が一貫して抽出された。この結果は、低年齢児保育における質の基盤として、発達や生活に即した個別的な援助が重要であることを示唆している。

0 歳児では、子どもの一人一人の発達や個性を尊重しながら、身体的・情緒的な発達の両面に応じて環境構成し、子どもの内面世界の共有や情緒的に関わることで、保育の質につながることを示された。一方で、1・2 歳児では、言葉によるやり取りや他者との関係構築に関する因子が加わり、発達の進展に伴って表現や社会的な側面への援助の重要性が増す可能性を示唆した。

また、「意識」と「行動」の両方において、とりわけ 0 歳児において類似した 4 因子構造が得られたことは、保育者の大切にしたい内的志向と実践行動が一定の整合性をもち、質の高い保育を支えている可能性を示すものである。これに対して、1・2 歳児では「意識」と「行動」の因子構造が異なる部分があ

あり、例えば経験やイメージの表現への援助は「行動」にのみ抽出された。これは、保育者が実践の中で子どもの経験の意味づけや表現を支えることを重視していることを示しており、保育現場で蓄積された実践知が、保育の質の基盤として現場に根ざしていることが伺える内容である。

低年齢児保育の質と研修との関連の結果では、園内研修の実施、職員間の共有、自己評価と改善、そして施設長によるマネジメントの在り方といった組織としての取り組みや環境づくりが、保育者の意識・行動に強く関係していることが明らかになった。特に「保育の質向上のための施設長のマネジメント」が多くの因子と有意に関連していた点は、施設長による日常的なリーダーシップや支援の姿勢が、現場の保育の質に大きく寄与する可能性を示した。

今後は、低年齢児保育の質草案の因子構造の結果から、因子の安定性・妥当性に一定の留意が必要であるため、尺度化においては、該当因子の概念的明確化および項目の再構成が求められる。保育の質と研修機会との関連では、その因果関係が不明であるため、縦断研究や介入的研究を行い、両者の関係をより明らかにする必要がある。また、交絡要因（年齢、保育経験年数、資格等）の検討も望まれる。これらの課題を検証し、保育の質向上のための効果的な研修の設計や制度整備に資する知見が得られることが期待される。

E. 結論

本研究は、日本の文化や制度に適合した3歳未満の低年齢児保育の質を評価するスケール草案の初期的な妥当性を検討し、保育の質を高めるためには研修機会の充実が重要である可能性を示した。今後は、スケールの一層の精緻化や、保育現場での実践との整合性を検証することが求められる。

F. 引用文献

1) Heckman, J. J., Stixrud, J., & Urzua, S.

(2006). The effects of cognitive and noncognitive abilities on labor market outcomes and social behavior. *Journal of Labor Economics*, 24(3), 411–482.

2) Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD). (2012). *Starting Strong III: A Quality Toolbox for Early Childhood Education and Care*. OECD Publishing.

3) von Suchodoletz, A., Lee, D. S., Henry, J., Tamang, S., Premachandra, B., et al. (2023). Correction: Early childhood education and care quality and associations with child outcomes: A meta-analysis. *PLOS ONE* 18(10): e0293056.

4) こども家庭庁. (2024). 保育政策の新たな方向性 ～持続可能で質の高い保育を通じたこどもまんなか社会の実現へ～. https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/cd3e0064-0ab4-4bde-93db-b74ba24c7cf9/a9447ce9/20241226-councils-newkyuufudaredemotsuuen-cd3e0064-12.pdf (アクセス日: 2025年5月6日)

5) 厚生労働省. (2018). 『保育所保育指針』.

6) Egert, F., Fukkink, R. G., & Eckhardt, A. G. (2018). Impact of in-service professional development programs for early childhood teachers on quality ratings and child outcomes: A meta-analysis. *Review of Educational Research*, 88(3), 401–433.

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし